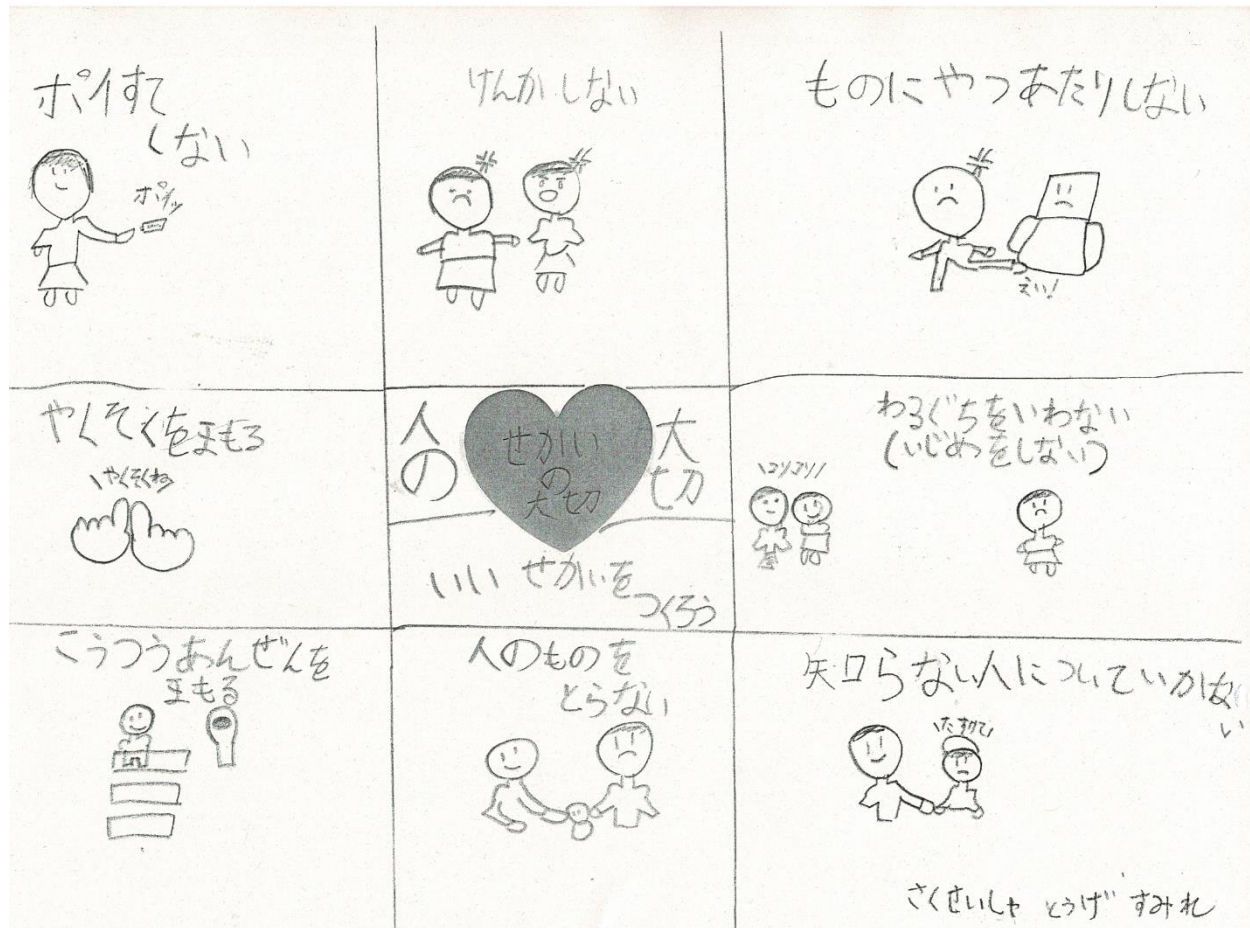


(家庭数配布)



みんなの心があたたくなる学校を



これは先日、私が2年2組の教室に行った時、黒板に貼ってあるものをたまたま見つけました。本人に話を聞いてみると、「みんなが仲良くなるように、目標を立てられればいいな。」と思い、誰に言われるでもなく作ったものだそうです。素晴らしいですね。私も心が洗われるような気持ちになりました。

私はこのような純粋な気持ちを大切にしたいですし、心があたたかくなるような学校をみんなの力で作っていきたくて改めて思いました。

◇校長のつぶやきコーナー

私が度々この紙面でお伝えしていることの1つに「考える力」があります。時代の変化とともに個々に求められる力も変わっていくことは、保護者の皆様も十分ご承知のことと思います。かつて（と言ってもいつ頃とは決めるに難しいですが。）は、「教えられたことをそのまま覚える」「指示されたことを忠実にこなす」が能力として評価されていた時代がありました。しかし現代では、このようなものはあまり価値のある能力としては評価されず、それよりも企画力や創造力などが求められることが多くなっています。

私は毎朝校門に立ち、登校してくる子どもたちに挨拶をしています。時々子どもたちから「今日、水やった方がいい？」と聞かれます。子どもたちはアサガオなどを育てているのですが、その水やりのことです。この問いに対し、私は安易に答えを言わず、「考えてみて。」と返すようにしています。もし私が「今日は水をやりましょう。」「今日はやらなくていい。」と答えてしまうと、子どもたちは一切考えることをせず、「校長先生が言った。」を自分の行動の基準にしてしまうからです。「考えてみて。」と言われた子どもたちは、アサガオを前にして悩めます。そんな時、「アサガオの様子を見て。葉っぱがピンしているかな？しおれているかな？」「土を触ってみて。湿っているかな？乾いているかな？」とヒントを与えます。このようにすると、「じゃあ、今日はやらなくてもいい。」「今日は絶対にやらなければならない。」と自分で「考えて」答えを出すことになります。

ここまで述べてくると、私がいったい何を言いたいのか、保護者の皆様はすでにお分りと思います。要は「考える力をつけさせようと思えば、子どもに程よく悩ませること」です。ただ、ここで難しいのが「大人がどれだけ我慢できるか？」です。大人はすでに様々な経験を経ていますので、大抵のことについてはその結果が予測できます。よって、ついつい「ああしろ、こうしろ。」と命令してしまいます。これでは子どもの「考える力」は育ちません。大きなケガやトラブルにでもならない限り、子どもに考えさせるべきです。仮に失敗しても、そこでまた考えます。子どもは、そのようにして様々な経験を積み重ねながら「考える力」を身につけていくものだと思います。

私事になりますが、私は子どもの頃、自分の好きなようにさせてもらっていたような気がします。勉強そっちのけでスポーツしかやっていない時期も…。こんな私に母親は「熱中することがあればそれでいい。」と言ってくれました。振り返ってみると数々の失敗や回り道。でも、その結果、自分なりに「考える力」もつけられたのかなと思います。

それぞれのご家庭のお考えもあるでしょうから、後はお任せ致しますが、私のこのつぶやきを少しでも参考にしていただければ幸いです。

